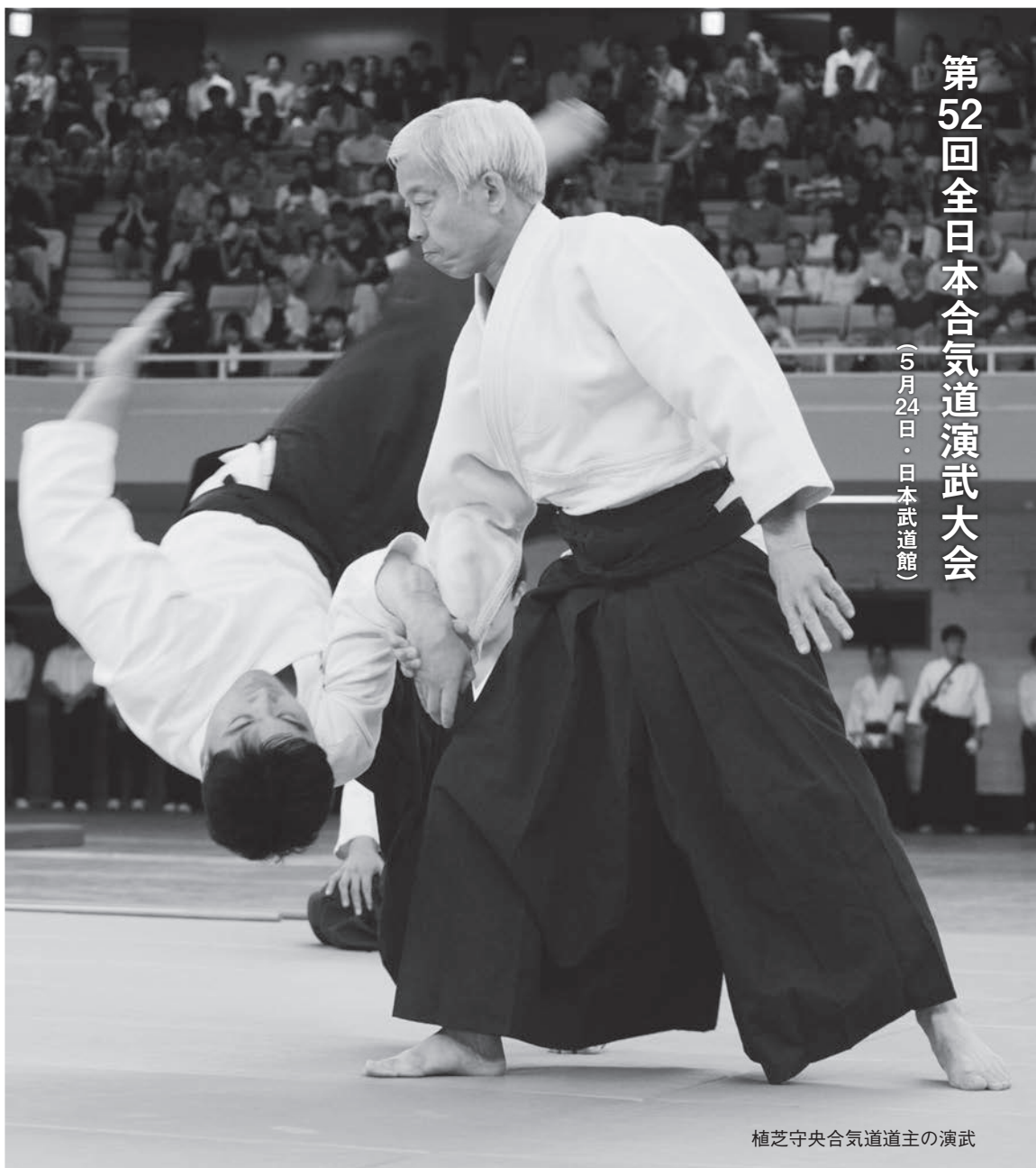


BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第52回全日本合気道演武大会

(5月24日・日本武道館)

植芝守央合気道道主の演武

広がり続ける合気の輪

過去最多7877名が参加



演武に拍手を送る観客

合気道最大の演武大会は、植芝守央合気道道主の総合演武により締めくくられた

第52回全日本合気道演武大会は、5月24日に日本武道館で開かれた。会場には演武者と観客合わせて約1万人が参集。植芝守央合気道道主をはじめ、全国の師範や指導者、各地の道場、社会人団体、学生団体など、過去最多となる7877名が演武を披露した。

開会式は定刻の正午に始まり、まず、可児晋合気会理事が開会の辞を述べた。次に、大会会長の植芝守央合気道道主が挨拶に立った。

「この50年、合気道は大きな広がりをもせ、現在は世界95カ国にその裾野を広げております。そのような大きな広がりをもった合気道だからこそ、一年に一度、大勢の皆様が一堂に会するのは、大変意義のあることだと思います。大きな輪を広げた合気道ですが、稽古をされていない方々にも、一層理解してほしいと考えます。その意義を踏まえ、全ての方々に心のこもった演武をしていただきたいと存じます。そして、幅広い交流をされ、本大会を有意義なものにされることを願っています」

来賓祝辞では、松永光日本武道館



大会風景



会長が挨拶に立った。

「全国から合気道に対して深い関心を持つ方々が、このように数多く集まったということは、植芝守央道主を中心とする稽古に励む皆様が、しっかりと結束して発展に尽くしている現れです。今日は、多くの観衆の前に、合気道の素晴らしさはここにあるというところを示してください。今後さらに発展することを、心から祈念いたします」

次に、島村宜伸日本武道館常任理事が「合気道は覇を争わず、技と心の競い合いを中心とする素晴らしい武道です。中学校の保健体育に武道が取り入れられましたが、合気道を通じ、日本人としての礼儀作法の大切さを教えることは、国家の将来にも大変意義のあることです。今日の大会が、日本人の成長発展のために大きく貢献することを期待いたします」と参加者を激励した。

続いて、山谷えり子参議院議員が「合気道は美しい宇宙の調和、そして合気の心を広げるものとして大変注目されております。中学校の武道授業では、全国各地の先生方が学校に出向いてお稽古をつけてくださっ

ています。もともとと広がつてくれればいいと願っています」と挨拶した。

その後、武正公一衆議院議員が「合気道を愛する方、愛好される方はもとより、合気道を知らない方にも広めていただきたく、そのような演武大会になるよう、心からご期待申し上げます」と祝辞を述べた。

登壇者挨拶の後、来賓紹介、祝電披露があり、演武に移った。

日本武道館の大道場には、赤、青、黄、緑、白に色分けされた5つの演武場が設けられた。演武は2部構成で行われ、第1部最初の大役は関東学生連盟が担った。演武の開始を告げる大太鼓が「ドン！」と打ち鳴らされると、学生たちは気合いを出しながら、正面打ち入身投げ、座技正面打ち一教、横面打ち四方投げなど、元氣溢れる技の数々を披露した。

そして再び太鼓の音。気がつけば規定の演武時間である1分半は、あつという間に過ぎ、学生の「ありがとうございました」という声を合図に、会場から温かい拍手が送られた。続いて、本部道場指導部師範が落ち着いた雰囲気です。素早い入身や



関昭二本部道場指導部師範

植芝充央本部道場長代行



大澤勇人本部道場指導部師範



安野正敏本部道場指導部師範



鍛え抜かれた 技の数々

転換から、入身投げ、四方投げ、小手返しなどの技を披露した。

その後、各道場、社会人団体の修業者、地域で活躍する師範・指導者が畳に立った。さらに、防衛省合気道連合会、合気道学校と続き、指導部指導員演武では、基本技抑えとして、立ち技、半身半立ち、座り技でそれぞれ第一教から四教までの抑え技を行った。

第1部の最後は植芝充央本部道場長代行が自由演武を行った。立ち技、座り技、半身半立ちの技、多人数掛けを披露して、前半を締めくくった。

10分間の休憩をはさみ、第2部の始めは北海道、東北、中部、関西、中四国の学生連盟。第1部の関東に負けない気合いのこもった演武を披露した。続く高等学校、中学生演武では、白帯の初心者も数多く出場。慎重に技の手順を考えながら、真剣な眼差しで技を繰り返した。そんな雰囲気の中で生徒たちも畳から下りると一転、安堵の表情を浮かべ、屈託ない笑顔で顔を見合う姿が見られた。

その後、第1部と同様に各道場の修業者たちが次々と登場。海外道場の演武では、ヨーロッパ、アジア、

金澤威本部道場指導部師範



小林幸光本部道場指導部師範

栗林孝典本部道場指導部師範

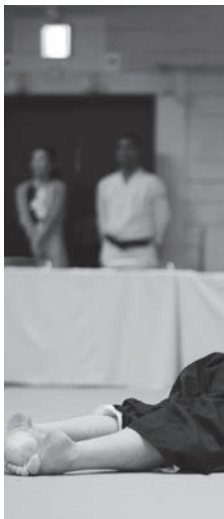


遠藤征一郎本部道場指導部師範

横田愛明本部道場指導部師範



鳥海幸一本部道場指導部師範





小林保雄合気道小林道場総師範



菅沼守人合気道祥平塾道場長

高本和宜熊本合気会水前寺道場長



工藤泰助合気道敷島塾師範



竹中日出雄竹豊館師範



アメリカ、オセアニアから160名の出場があった。日本人顔負けの演武をする者も多く、合気道が広く世界に普及していることを窺わせた。

終盤に近づき、本部道場少年部が演武場に立ち、丁寧な座礼から座技正面打ち一教や呼吸法を行った。傍らで師範や指導員たちが演武を見守る中、動作を区切り、イチ、ニ、サンと元氣よく声を合わせながら技を实践した。

その後は本部道場一般部の演武、師範演武、自由演武と続いた。自由演武の掉尾を飾るのは本部師範の多田宏九段。木刀で四方を切り付けた後、四方投げ、小手返し、入身投げ、多人数掛け、杖取りを行った。84歳という年齢を感じさせない力強さと円熟の演武で、会場を魅了した。

いよいよ最終演武となり、植芝守央合気道道主が中央の畳に上った。植芝道主は「今日に至るまで、合気道に情熱を持って取り組んでくださった方々の大きな力が、ここに集まった皆様を一体にしたのだと思います。開祖の創始した、この素晴らしい合気道を、正しく後世に伝えるのが私たちの役目です。これからも皆

自由演武 円熟の技



窪田育弘奈良合気会師範



嶋本勝行合気道豊中正泉寺道場長



多田宏本部師範



坪井威樹合気道多田塾月窓寺道場師範代

針すなお高伝館館主



様とともに、前向きに取り組んでいきたいと思います」と述べ、基本技を中心に、立ち技、座り技、半身半立ちの技を、続いて、太刀取り、杖取り、多人数掛けを披露した。

道主の総合演武が終わると、会場は万雷の拍手に包まれた。

道主への花束贈呈の後、古藤昇司合気会常務理事が挨拶。

「参加者の皆様と、準備に携わった学連やスタッフの皆様にご礼申し上げます。一人一人の努力が一つの目的に向かって結束したときには、素晴らしい力が発揮されます。出場した方々はその力を得て、立派な演武をされました。

開祖植芝盛平翁は、合気は人類の和合の道であると教えておられます。今、世界はまさに混迷の極みです。こういうときにこそ、我々は道主を中心にこの合気の輪を広げていかなければなりません。明日からまたこの和合の精神をしっかりと心に受け止めながら練習をしていただき、また来年、武道の殿堂であるこの日本武道館でお会いしましょう」大きな拍手の中、大会は盛会裡に幕を閉じた。

参加者コメント

● 幸優氣会 II

原田みらいさん、亀田怜玖くん

共に8歳。初めての出場で笑顔の二人に、演武後の感想を聞いてみた。

▽亀田くん「長くやるのかと思っていたら、あつという間でした。技の

順番を間違えたけど、呼吸投げは上手くできました。最初は、やりたくなかったけど、やってみたら楽しかったです」

▽原田さん「お母さんと一緒に10月に始めました。演武会に出るのがずっと楽しみでした。呼吸法で倒れたところがよく出来ました。来年も出たいです」

● 岡山合気道交流会 II

梶谷彩香さん、藤野由佳さん

大学の先輩・後輩同士。社会人になつてからも稽古を続けているという。演武会の出場は2度目。梶谷さんは「いろいろな方々の演武を見ることが出来て、勉強になりました」、

ペアを組んだ藤野さんは「日頃の稽古の成果を発揮できました。岡山交流会をアピールできたらいいなと思います」と、感想を述べた。

仕事を始めてからは稽古に出られないときもあるが、自分のペースで参加しているという梶谷さん。「合気道は力任せではなく、体の使い方で大きな相手を倒すことが出来ます。女性にも取り組みやすい武道です。勝ち負けではなく、気持ちを鍛

〔演武者一覧〕

■第1部

1指導者連盟演武（関東）

2指導者連盟演武 桜井寛幸、桂田英路、難波弘之

3指導者連盟演武 藤巻宏、入江嘉信、森野洋

4道場演武 合気道等々力道場、合気道目黒道場、練武館道場合気道部、合気道自由が丘道場、合気道練馬総合体育館道場、鍛守道場、新小岩合気会、土井道場、合気道小田急相模原教室、東村山市合気道会・日高市合気道同好会、合気道唯心館杉野道場、奥多摩合気道会、合気道小金井同好会、東大和市合気道会、倉武会鈴鹿合気会、荒川合気会、合気道清連塾、渋谷区合気道同好会、仲池合気道同好会、三鷹市合気道連盟、合気道進藤道場、荻窪合気道同好会、葛飾合気会、町田合気会、千葉合気道会、千葉合気道道場、合気道清明塾、合気道正心会、船橋合気道道場、深谷合気会、合気道修練道場自然館、A & P合気道石垣道場、合気道健武館、大宮合気道俱樂部、長野至水会

5学生演武 学生連盟外I、学生連盟演武、学生連盟外II、学生連盟外III

6道場演武 合気道鈴木道場、草加合気道研究会、世田谷大原合気会、合気道鹿沼教室、合気道相模和道会、我孫子合気会、武蔵小杉合気道会、合気道瀧田塾、幸優氣会、守清館、新所沢合気道同好会、新郷合気会、鶴岡八幡宮研修道場合気道科、小田原合気会、合気道弘明会、合気道明心館道場、合気道盛岡道場、合気道誠心会、合気道大河原教室、城東誠和会、合気道青葉塾道場、大田区合気道会、合気道青葉塾道場、合気道幸徳会、横浜南合気会・緑水会、向ヶ丘古館合気道道場、月窓寺道場、央名会守道場、合気道麻生同心会、大和合気道クラブ、旭合気道クラブ、尾張合気会、合気道吹上道場、名古屋合気会、岡崎合気道皇道館道場、合気道名古屋道場、相生會、白光真衣会合気道場、兵庫合気会姫路道場、合気道門悠会、岡山合気道交流会

7指導者演武 関根史郎、松岡美香、岡崎正、中沢一徳、名取耶融

8指導者演武 太田裕之、森本忠則、門馬伸至、磯村英昭、勝又啓光

9自由演武 嶋本勝行、工藤泰助

10道場演武 合気道研究会インターナショナル

11社会人団体演武 経済産業省合気道部、東京消防庁合気道部、国際協力機構合気道部、稲門合気俱樂部、松戸市役所合気道部、東京都庁合気道部、朝日合気会、法務省合気道部、富士フィルムテクニクプロダクツ合気道部、国立印刷局合気道部、国会合気会、ソニー合気会、富士通合気道部、三井住友銀行合気道部、広島市役所合気道部、NHK合気道部、宏心会、N T T東日本東京合気道部、志念会、合気道臥龍会、品川区合気道交友会、I H I合気会、第一三共合気道部、奈良合気会橿原市役所合気道部、城南合気会

12連盟演武 茨城県合気道連盟（取手、土浦つくば、つくばは修練会、かすみがうら・曙・阿見、石岡・笠間市・湖沼・百里、水戸）、新潟県合気道連盟、北海道合気道連盟（苫小牧合気会天心塾）、愛媛県合気道連盟（苦歌山県合気道連盟、長野県合気道連盟、合気道兵庫連盟、愛知県合気道連盟、山口県合気道連盟、奈良県合気道連盟、群馬県合気道連盟、大阪府合気道連盟、高知県合気道連盟、神奈川県合気道連盟、東北合気道連盟（宮城県、福島県、秋田県、山形県、青森県、岩手県）

13指導者演武 田中英生、小野昭彦、岩田光生、勝野寧隆、國増秀樹

14茨城支部道場指導員演武 磯山俊博、永島義道、平澤憲次、秋本英裕、川上俊明

15師範演武 木村一郎、船越光雄、本澤俊三

16防衛省合気道連合会演武（稽古法）

ル、葉山町合気会、多田塾甲南合気会、合気道春水道場、桜台合気道クラブ、合気道大阪育合気会、奈良合気会、大阪合気塾、和氣會、合気道大阪道会、合気道研心会、大宮合気道会、合気道桶川愛氣会、和合館合気道修練道場、南海合気会、高松合気会、鷹の台合気道同好会、野田合気会、湘南翡翠合気道クラブ、合気道奈良萬葉塾、相模綾瀬・海老名合気道連盟、相模合気道連盟、合気道白河道場、合気道越谷道場、郡山合気会、神都久保道場、西川口合気道クラブ、合気道石志塾グループ、目黒区合気道連盟、合気道花見川道場、佐倉合気会、文京区合気会、宇宙の会、合気道君津道場、浦和尾間木合気会、広島合気会、船橋合気会

好評発売中

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的心身論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一書。



神戸学院大学教授 前林清和 著
(四六判・上製・370頁)

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節 武士の覚悟／第二節 禅と悟り／第三節 能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節 不動心／第二節 武道の悟り／第三節 駆け引き／第四節 目付／第五節 瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節 気とは何か／第二節 気の歴史と武士／第三節 勝負と気／第四節 天道と心気／第五節 静と気／第六節 達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節 武道の型／第二節 柳生の技／第三節 武蔵の技／第四節 竹刀打込剣術／第五節 心法重視の型剣術／第六節 柔よく剛を制す／第七節 矩／第八節 鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節 現代剣道と人間形成／第三節 佐川派大東流の技と修行／第三節 身を処する／第四節 死と生



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ



（B5判・236頁）

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

第36回全日本高齢者武道大会



来年もまた武道館で会おう！

——毎年恒例の高齢者大会

第36回全日本高齢者武道大会（主催Ⅱ全国老人福祉助成会）は6月9日、日本武道館で行われた。

大会には、55歳から92歳までの高齢剣士616名が、北は北海道、南は沖縄まで全国津々浦々から参集し、剣道、銃剣道の試合を繰り広げた。

午前9時に開会。国歌斉唱に続いて、物故者に黙祷が捧げられ、前回から今回にかけての1年間に亡くなった剣士の冥福を祈った。

次に成元善一大会会長が主催者挨拶に立った。

「高齢者の生きがい対策として始まったこの大会がこのように盛大に開催されますことを大変喜ばしく思っております。世界保健機関の発表では日本人の平均寿命は84歳で、昨年に引き続き世界第一位となりました。本大会には92歳を筆頭に80歳を越える方が93名出場されています。武道を通じて健康で活力のある生活を送る皆さんに、誰しも憧れるところであり、同世代に大きな勇氣と希望を与えるものです」

高崎慶男全日本高齢剣友会前会長、岩立三郎全日本高齢剣友会会長



剣道内閣総理大臣賞争奪戦＝林（左）が増尾を攻める



銃剣道A組決勝＝井口（左）が山野井の上脰を狙う



宣誓を行う林学選手

の挨拶に続いて、林学選手（静岡）が宣誓を行った。

開会式終了後、剣道、居合道、銃道場の模範演武が行われ、その後大道場に設けられた13の会場に分かれて、試合が行われた。

剣道では、寿A組（85歳以上）で

林学が3連覇を果たした。寿B組（80～84歳）で優勝した増尾利之（茨城）と内閣総理大臣賞争奪戦を行った結果、林が2年ぶり2度目の内閣総理大臣賞を獲得した。団体戦は神奈川県が、女性総合トーナメントは山口民子（東京）が制した。

銃剣道A組（80歳以上）決勝は、井口喜八（長野）と山野井一男（千葉）が対戦し、井口が上脰を奪って一本勝ち、優勝を果たした。団体戦は、決勝で静岡県が青森県を2―1で破り、優勝を決めた。

出場者たちは会場のあちこちで年に一回の再会を喜び、武道談義に花を咲かせ、来年の再会を約して、会場を後にした。

●剣道内閣総理大臣賞・寿A組優勝

■林学選手（静岡・88歳）

「寿Aの方は3年連続で1位になっているんだよ。去年は内閣総理大臣賞は負けちゃったんだけど、今年は勝つことができた。去年負けたから、やめるわけにはいかなくて、天の声として続けろと言われたと思った。数えて90になるからね、もうやめてもいいんだけどね。今年、勝つことができて、これが大きな喜びです。続けてきてよかったと思う。それと県の皆さんに、勝つことができることが証明できたと思う。言うより実行することの方が難しいからね。今年は祝賀会をやって、みんなに伝えたいね」



剣道A組準決勝は二刀同士の対戦となった（右＝高橋）

●剣道A組準優勝Ⅱ高橋守選手（新潟）

準決勝で澤口高一選手（山形）との二刀対決を制して決勝に進出。決勝では逆転の二本負けを喫した。

「澤口選手とは6、7年前にも対戦して、一本負したんだ。今日はお返しさせてもらった。二刀同士で狙うのは空振りしたところとか、開いてるところね。小太刀でお互いに避けますから難しいですよ。2年前に3位で、去年は負けたから今年は絶対に入賞はしてやろうと思って、賞状の筒を持ってきたんですよ（笑）」



山口民子選手（東京）

●剣道女性総合トーナメント優勝Ⅱ山口民子選手（東京・69歳）

「去年初めて出場して、判定ですぐ負けちゃったんで、もうちょっと上に行きたいなと思っていました。今日は図らずも上の方に行けて、決勝は去年優勝の前田真由美選手と巡り会えて嬉しかったです。高齢剣友会に、勧められて入ってよかったと思っています。試合に出るとお友達が増えますね。本当に去年出てよかったと思います。剣道をやめようと思っていましたけど、また続けようという気になりました」



高橋守選手（新潟）



銃剣道A組決勝を戦った2人（山野井・井口〔右〕）

●銃剣道A組優勝Ⅱ井口喜八選手（長野）

「この大会で3回優勝することを目標にしている、今回達成できたので嬉しいです。もう少し教士八段らしい試合運びをした方がよかったんですが……。ちょっと試合に固執をしすぎて、自分の体力を消耗している感じがしました。今は地元で高校生に指導をしています。国体に出場するのが一番の目標ですが、それよりも駄（しつ）だとか、礼儀だとか親御さんが言えないことや、やれないことをカバーしてあげようと思ってます」



松田正夫選手（静岡）

●銃剣道B組優勝Ⅱ寺坂清仁選手（愛知）

「団体戦の本命といわれながら、負けてしまったんで、何か一つ持ち帰らないと、という思いで、いつもよりも集中してやりました。左の足裏に魚の目ができて今、痛いんですよ。それが功を奏したのか無駄な力が抜けたんですね。突くたびにズキンとくるんですが、それで逆に集中できたのかな。怪我の功名ですかね。来年こそ団体の優勝旗を持って帰りたいです」



寺坂清仁選手（愛知）

●銃剣道団体戦優勝Ⅱ大将・松田正夫選手（静岡・80歳）

銃剣道団体戦は1―1で大将戦を迎え、試合は延長までもつれ込んだ。「最後はもうどうなってもいいと思って頑張りました。私はマスターズ陸上で砲丸投げと円盤投げをやっています、先月、県で円盤投げ2位に入りました。銃剣道の魅力はここぞというときに一本が入ったときですかね。今の試合の決まった瞬間も格別でした。今後も陸上と銃剣道で頑張りたいです」

●銃剣道基本技優勝Ⅱ相野照昭選手（青森）

出場した3部門のすべてで決勝に進出。10試合以上を戦った。「もうへとへとです。青森に帰らなければいけないのも大変です。銃剣道の技は修得が容易ですが、レベルが上がると、技の奥が深くて、そこにどんなのはまっていくんです。自分の納得のいく剣というのはまだまだ出ませんよ。神様がね、まだ私に試練を与えてくれるんだなと思っています。たくさんすごい先生方の背中を追っていきたいです」



銃剣道基本技決勝＝相野（左）対山田



相野照昭選手（青森）



大会結果

	組名	優 勝		準優勝	3 位
剣 道	寿 A（85歳以上）	内閣総理大臣賞 林 学 （静岡）	林 学 （静岡）	市成 義治（神奈川）	新谷 隆重（茨 城） 竹松 健（東京）
	寿 B（80歳～84歳）		増尾 利之 （茨 城）	平根 健夫（茨 城）	藤田 惣松（新 潟） 山下美津男（埼 玉）
	特（75歳～79歳）	上北 勲也（愛 知）		常光 彰（高 知）	藤井 勝丸（広 島） 岩田 威（神奈川）
	A（70歳～74歳）	池脇 哲哉（神奈川）		高橋 守（新 潟）	出口 博己（北海道） 澤口 高一（山 形）
	B（65歳～69歳）	遠山 正宣（新 潟）		久松 好弘（東 京）	満生 弘（茨 城） 沖田 康宏（東 京）
	C（55歳～64歳）	永井 常幸（北海道）		岩男 泰明（福 岡）	生沼 輝男（茨 城） 由井 一夫（神奈川）
	団体	神奈川県		埼玉県	栃木県 東京都
	女性総合トーナメント	山口 民子（東 京）		前田真由美（大 阪）	佐間 明子（大 阪） 鈴木きぬ子（静岡）
銃 剣 道	A（80歳以上）	井口 喜八（長 野）		山野井一男（千 葉）	武田 康二（青 森） 寺田 信二（愛 知）
	B（70歳～79歳）	寺阪 清仁（愛 知）		小出 秋夫（静岡）	田口 金作（青 森） 安西 隆仁（千 葉）
	C（55歳～69歳）	神谷 好美（愛 知）		相野 照昭（青 森）	園部 勝久（群 馬） 吉川 一美（新 潟）
	基本技（55歳以上）	相野 照昭（青 森）		山田 道夫（栃 木）	井口 喜八（長 野） 金子 重男（群 馬）
	団体	静岡県		青森県	新潟県 北海道

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる
剣道修錬を集大成した
本格的剣道修行論

好評発売中!



目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

剣の清流



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か —文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

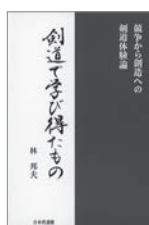


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）

健軍A(熊本)が4連覇

全自衛隊 空手道選手権大会

団体決勝中堅戦Ⅱ
健軍A・川端(左)の
上段逆突きが決まる



健軍チーム

第52回全自衛隊空手道選手権大会は、6月7日に日本武道館で開かれた。大会には全国の自衛隊支部から31チーム、137名が参加した。

組手では団体戦で健軍Aが4連覇、男子個人戦で村枝優成(健軍)、女子個人戦で山崎侑子(富士)が優勝した。

形では団体戦で国分、男子個人戦で中村圭登(朝霞)、女子個人戦で中村祐実(朝霞)がそれぞれ頂点に立った。

開会式では藤本憲司大会委員長が挨拶を述べた後、佐藤正久参議院議員が祝辞を述べた。

「今月18日、現・官房長官の菅義偉衆議院議員を会長に、空手道を応援する議員連盟が発足しました。その目的の一つに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおける空手道の正式種目化があります。日本で開催されるのであれば、正式種目にするための汗をかく、それが我々の仕事です。今日はみなさんが日頃の成果を遺憾なく発揮していただくことを祈念申し上げます」
開会式終了後、競技へと移った。

《組手》

トーナメント戦で争われ、試合時間は2分間。6ポイント差で勝敗を決し、時間内にその差が生まれない場合は、得点の多い者を勝者とした。また、同点の場合は団体戦では引き分けとし、個人戦では5名の審判による旗判定を行った。

■団体戦(3人制・25チーム出場)

健軍Aは初戦となる2回戦で富士、3回戦で練馬にそれぞれ3-0で勝利。準決勝では国分Bと対戦し、先鋒と中堅で勝ちを収め、2-1で決勝に進出した。

一方のブロックでは、準決勝で国分Aと前回2位の朝霞が顔を合わせた。結果は1-1で勝ち数が並ぶも、得点差で国分Aが辛勝した。

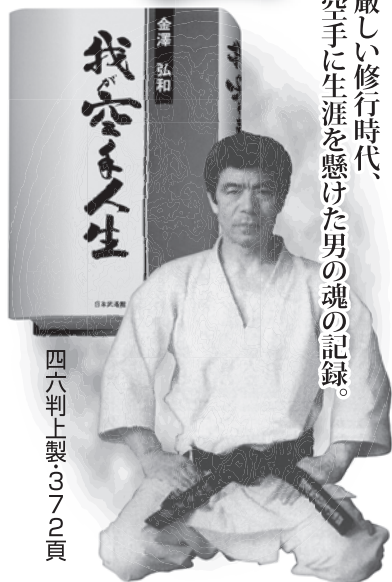
決勝は九州勢同士、健軍Aと国分Aの対戦。先鋒戦は健軍・村枝優成が2-1で国分・箕輪貴之を退けた。中堅戦、健軍・川端晋平は国分・牟田知弘の突きに上段突きを合わせてポイントを奪う。その後、川端は牟田の攻撃を近間で潰し、逆突きの連続技を決めて2-1で勝利した。ここで健軍Aの勝利が確定。大将戦は国分・濱田和徳が健軍・宮下拓弥

日本武道館 発行

我空手人生

国際松濤館空手道連盟館長

金澤 弘和 著



四六判上製・372頁

生いたちから父母の教え、「からて」との出会い、拓殖大学空手部に始まる厳しい修行時代、全日本制覇、海外への普及、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、空手に生涯を懸けた男の魂の記録。

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>

を1-0で降し、一矢を報いた。

健軍Aは4連覇を達成。健軍チームとして12回目の栄冠を手にした。

▽優勝II健軍A・藤島信監督

「決勝では僅差の勝利でしたが、内容的には力の差をみせることが出来たと思います。大将の宮下は足の怪我で十分な状態ではありませんでしたが、よくやりました。今後は、実業団の試合に向けて調整します。前回ベスト8だったので、今年は4強を目指します」

▽優勝II健軍A中堅・川端晋平選手

「決勝では先鋒が勝ってくれたので、何も恐れずに前に出る組手をしました。去年は準決勝で激しい突きもらい、試合の記憶がありません。

今回はそのようなこともなく、優勝の嬉しさを味わえてよかったです」

■個人戦

◇男子(75名出場)

四強には健軍所属の村枝優成、福島徹哉、萩原啓太の3名と箕輪貴之(国分)が揃った。村枝は萩原を判定で、福島は箕輪を4-1で降す。決勝は、村枝が中段蹴りを2度、さらには倒してからの突きを決めて7-12で福島を退け、初優勝を遂げた。

▽優勝II村枝優成選手(健軍)

「準決勝と決勝は、先輩との対戦でした。気持ちだけで戦ったという感じです。中段蹴りは自然に出ました」

◇女子(6名出場)

決勝は、山崎侑子(富士)と中北



個人戦男子決勝、村枝対福島(共に健軍)II村枝(右)は中段蹴りを2度決めて勝利をものにした

絢奈(築城)の対決。山崎は序盤に突き技でポイントを重ね、さらに中段蹴りを決めてリードする。中北も



個人戦女子決勝、山崎(富士)対中北(築城)II山崎(右)の中段逆突きが決まる

上段蹴りで差を縮めたが、あえなく時間終了。7-4で山崎の優勝が決まった。

形

トーナメント戦で争われ、旗判定により勝敗を決した。

■団体戦(16チーム出場)

前回優勝の下総は初戦で防医大に2-3で敗退。決勝はその防医大と国分が対戦。国分が力強いセーパイを演武し、防医大を4-1で退け、初優勝を果たした。

個人戦

◇男子(33名出場)

男子は決勝でアーナンを演武した中村圭登(朝霞)が、スパーリンペイで臨んだ能勢太志(国分)を4-1で降し、2年ぶり5回目の優勝を遂げた。

◇女子(3名出場)

決勝、男子で優勝した中村の姉、

形団体優勝Ⅱ国分
息の合ったセーパイで初優勝



形男子個人優勝Ⅱ中村圭登(朝霞)
アーナンを演武して2年ぶり5回目の頂点



形女子個人優勝Ⅱ中村祐実(朝霞)
スパーリンペイで、5連覇と姉弟優勝を決める



祐実(朝霞)がスパーリンペイ、対する橋上悠代(伊丹)はコウソウケンシヨウを演武した。結果は、中村が4-1で橋上を退けて5年連続の優勝となった。

【大会結果】

■組手試合

▽団体Ⅱ①健軍A②国分A③国分B、朝霞

▽男子個人Ⅱ

①村枝優成(健軍)②福島徹哉(健軍)③箕輪貴之(国分)、萩原啓太(健軍)

▽女子個人Ⅱ

①山崎侑子(富士)②中北絢奈(築城)

■形試合

▽男子団体Ⅱ①国分②防医大③市ヶ

谷、十条

▽男子個人Ⅱ①中村圭登(朝霞)②

能勢太志(国分)③梶山翔平(健軍)、土井翔太郎(防大)

▽女子個人Ⅱ①中村祐実(朝霞)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

Edited by Nippon Budokan Edited and Translated by Alexander Bennett

This book introduces the long history of the Japanese martial arts, and includes a comprehensive timeline, glossary of terms, and an index. The federations representing the arts of Jūdō, Kendō, Kyūdō, Sumō, Karatedō, Aikidō, Shorinji Kempo, Naginata, and Jūkendō, as well as various other Budō-related societies and experts contributed to the content. A must have for all martial arts enthusiasts.

B5, Bound, DVD included

Retail: Bunkasha International Corporation
http://www.kendo-world.com E-mail: info@kendo-world.com
ご注文は全国の書店またはamazon、日本武道館ホームページで

英語版
『日本の武道』
海外修業者に
おすすめの本!

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

金城 裕

日本武道館

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)

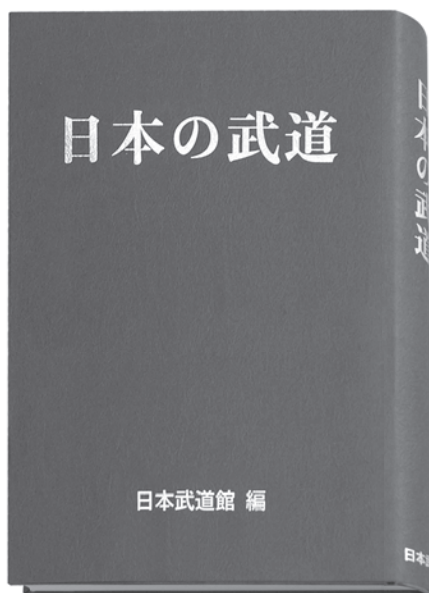


大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本武道館 編



武道を通じた青少年育成に

タイの教育関係者も注目

タイ王国公益法人が日本武道館を視察

6月2日、昨年の日本武道代表団の派遣先であるタイ王国から、青少年の健全育成を目的とする視察団が日本武道館に来館した。

視察に訪れたのは、タイの公益法人モラル・プロモーション・セン

ターの職員と、国立タマサート大学の教員ら8名。

タイ政府は同国文化省を主管に青少年健全育成振興政策を行っている

【視察団メンバー】

ナラティップ・プムサップ（モラル・プロモーション・センター理事）、ステイボン・チャンチャヤノン（同副所長）、パニダー・サッタサトゥチャナ（同研究・知識管理課主任）、キティヤー・スックプラサート（同学術員）、デチャ・サンカワン（国立タマサート大学学際科学部理事・社会学政学部長）、サイフォン・スーイストラメート（同准教授）、ルンナパー・テープパープ（同専任講師）、松本祥子（通訳）

が、その一環として、同省管轄の公益法人であるモラル・プロモーション・センターで、「地方行政において青少年の道徳・心身の健全な育成推進事業を計画・実施するための短期研修プログラム」を実施することとなっている。

これは、公立学校教員並びに青少年政策を担当する地方公務員が、日本の地方行政で実施されている青少年育成事業を視察し、それを参考に、自国の各地方における青少年の道徳・健全育成推進事業を策定していくことを目的に計画されている。

今回の視察団は、同プログラム実施の準備として、ガイダンスに必要なとなる資料や情報を収集するために来日した。日本武道館の他にも、埼玉県庁や東京都内の中高一貫校等へ視察に訪れた。

視察団は午後3時に来館。事務棟・

役員室で三藤芳生日本武道館理事・事務局長が出迎えた。

三藤理事・事務局長は、武道の教育効果や礼節に始まり、日本武道館が武道を通じた青少年の健全育成を目的に創立されたこと、少年少女武道錬成大会や武道指導者講習会、武道学園など日本武道館の事業、平成24年度に実現した中学校における武道の必修化について説明した。視察団のメンバーは話に聞き入り、真剣にメモをとっていた。

説明が終わり質疑応答に移ると、「武道を学ぶことによって自分を豊かにし、それが社会に繋がっていくということか」「相手に勝つというより自分に克つという認識で良いか」といった確認があり、短時間のうちにも武道の特徴が理解されたようだった。また、武道必修化についても、その経緯や実施種目など、質問が集中した。

そのほか、「タイでも体、心、社会、精神の4つの健康が注目されているが、どのようにすれば良いか、方法が根付いていない。武道はそれを全てカバーできると思った」「ムエタイを授業に入れる動きがあるが、精

神性も考慮する必要があると感じた。武道のように、理念をうまく取り入れていきたい」といった、タイの実情に照らし合わせた意見も述べられた。三藤理事・事務局長は「ムエタイは世界的に広まった文化。教育的な価値を盛り込んで実践されたら素晴らしい」と答えた。

最後にモラル・プロモーション・センター理事のナラティップ・プムサップ氏が「これまで知らなかった武道の理念や歴史などを学ぶことができ、貴重な体験となった」と感想を述べて視察は終了となった。



説明する三藤理事・事務局長と、熱心に話を聞く視察団